

CNなど12編

NIPPOグループ 改善事例発表会

NIPPOは1月30日、東京都内で「第14回NIPPOグループ改善事例発表会」を開いた。東京会場には105人が参加し、他会場からのウェブ参加もあった。グループ会社を含む12支店から応募があった80編



発表者と吉川社長(下段中央)
(NIPPO提供)

の中から選出した、カーボンニュートラル(CN)や安全、環境などに関する12編が発表された。関係部署の部長らによる審査の結果、「中温化合材製造への取組みと工夫」を最優秀賞に選んだ。

冒頭、中田尚行取締役兼常務執行役員技術本部長は「発表会は現場で苦労した経験や、業務の改善事例を水平展開するためのものだ。今回の事例を自分の部署で共有し、業務改善に取り組んでほしい」とあいさつ。12編の発表後、吉川芳和社長は「現場からの提言が多く、経営に生かせる内容だった。CNへの取り組み事例では、副次的効果も期待できる新たな観点からの発表があり、感銘を受けた」と総括した。

改善事例の共有を

NIPPO

NIPPOは1月30日、東京都中央区のMEETING SPACE東京八重洲で「第14回NIPPOグループ改善事例発表会」を開いた。

発表会は、技術系部署に加えて、人事や総務、営業など事務系部署を含む全部署が対象。グループ会社を含む12支店の80編から選ばれたカーボンニュートラル、安全、環境、品質向上、働き方改革、生産性向上など12編の発表があった。開会に当たって、中田尚行取締役常務執行役員は「発表会は、現場で苦労した経験や、業務の改善事例を水平展開するためのものだ。今回の事例を自部署で共有し、業務改善に取り組んでほしい」とあいさつした。



吉川芳和社長は「今回の発表は、現場からの提言が多く、経営に生かせる内容だった。特にカーボンニュートラルへの取り組み事例では、CO₂排出量削減にとどまらず、合材工場での労働環境の整備や働き方改革への取り組みといった副次的効果も期待できるなど、新たな観点からの発表があり、感銘を受けた」と総括した。写真。審査の結果、最優秀賞には「中温化合材製造への取組みと工夫」が選ばれた。このほか、優秀賞2編、審査員特別賞2編も選出された。